関東信越税理士会大田原支部長賞

税でつながる地域文化

大田原市立大田原中学校

３年　西海　優衣菜

にぎやかな通り、勇ましく練り歩く武者たち。今年も大田原市では与一まつりが開催される。私だけでなく、多くの人々が楽しみにしているだろう。しかし、よく考えてみると疑問に思ったことが一つある。それは与一まつりの開催費用の財源についてだ。

調べた結果、財源の多くを占めるのが市民からの税金だった。観光振興費として文化を継承するため、地域を活性化させるために約２千万円の税金が使われているそうだ。たしかに与一まつりは盛り上がるし、なくなってしまったら寂しいと思う。しかし、与一まつりはそこまで価値のあるものなのかとまた疑問に思った。

私は小学６年生の時、武者行列に参加した。オレンジのきれいな着物を着て、白い鉢巻を巻いた。そのときの貴重な経験は今も心に残っている。そして、機会があればまた参加したいと思っている。今思い返すと、あの時着たきれいな着物の維持費も税金からのものだったはずだ。税金は気づかないところにも役立っていて、地域の文化を盛り上げ、継承することにもつなっがっていることを実感した。

また、市内だけでなく市外の友人から与一まつりに行ったという話を聞くことが多い。ある友人は、「大田原市は那須与一のゆかりの地だということを与一まつりに行って初めて知った。」と言っていた。与一まつりで楽しめる与一踊りや武者行列、大田原ブランドの食材が使われたキッチンカーや屋台はただ楽しんでもらうだけでなく、大田原市の魅力をアピールし、多くの人々に知ってもらうことができる。つまり、税金は地域を活性化させていると言えそうだ。

これらのことを考えると、私は税に対する考えが変わった。以前は税と聞くと、お金を納めるための制度というイメージしかなかった。しかし、税は私たちの生活を支えているだけでなく、地域の活性化や文化の継承など、地域の文化を守り、未来へ受け継いでいくためにも大きな役割を果たしていることを知った。私たちが与一まつりに行くことができるのも、多くの人々の努力だけでなく、税による支えがあってこそ守られているのである。

大田原市民として与一まつりを続けていくためにも、今回学んだことをきっかけに、これからは税を身近なものとして捉え、その使われ方にも関心を持ちながら、私たちの文化を大切にする心を忘れずに過ごして行きたい。

そして、今年の夏は必ず与一まつりに行こうと思う。